

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、愛と奉仕に満ちた施設、グループホームおよび保育園を実現し、神の栄光と高齢者の福祉、子供達の未来のためにつとめる。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
19年目となる2014年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、また新たな1歩を踏み出す年である。 2014年10月にサービス付き高齢者向け住宅「オリμπア鶴甲」をオープンすることにより、高齢者が住み慣れた地域で安心してこれまで通りの暮らしを送るための選択肢をひとつ増やすことができる。また、2015年1月に認知症高齢者グループホーム「オリμπア篠原」をオープンし、オリμπアの認知症ケアへの取り組みをより充実させる。これにより、オリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」にさらなる貢献をすることが可能になる。この取り組みをより具体化するために、オリμπアの理念を実践することができる人材を確保し、その育成に注力する。また、オリμπアの取り組みをより多くの方に伝えるために、インターネット等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。日々目まぐるしく変化する社会状況に対応するためにも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことにより、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。2015年度の介護報酬改定に対する準備等、様々な課題は抱えているが、初心を忘れず、常に新しいことにチャレンジし続けることができるオリμπアである1年にしたい。			
事業計画			
1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。			
2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。			
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。			
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。			
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。			
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。			
7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢の分析を行う。			
8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。			

施設	特別養護老人ホーム オリンピア	報告者	施設長 太西 裕二
事業目標	1. 地域における福祉拠点としての役割を確立する 2. 財政基盤の確立 3. 法人内ネットワークを強化し、多種多様なニーズに対応する 4. 挑戦し続ける姿勢 5. 人材の育成		
概要	<p>オリンピアが高齢者施設として中央区に誕生してから、17年の月日が経った。これまでも高齢者の生活をサポートする役割を担い続けてきたわけであるが、高齢者介護や地域福祉を取り巻く環境は大きく変化してきた。そしてこれからも、その環境は変化し続けることが予測される。オリンピアも17年という経験を大切にしながらも、新しい試みに挑戦し続け、変化をしていかなければならない再来年に20周年を控え、オリンピアも変わらなければならない。</p> <p>単年度としての目標達成はもちろんであるが、来るべき節目に向けて、今年度は運営・サービスの質共に、基盤を固める年であるといえる。収支の適正化、質の向上、それを似合う人材の育成などの活動を強化し、また、地域活動や社会貢献を積極的に行う事で、運営基盤同様運营地盤を確立する1年にしたい。</p>		
事業計画	<p>1. 施設が存在する地域の特性をきちんと把握し、地域ニーズにあったサービスを展開していく。各事業所の特性をいかした、トータルサポートの実践。地域給食会『おりんぴあ食堂』など、地域を対象としたプログラムの展開。地域の小中学校や各種団体への講師派遣も含めた情報発信と啓発運動の促進。見学者や実習生の積極的な受け入れなど、地域の中で無くてはならない福祉拠点としての役割を確立していく。</p> <p>2. 充実したサービス提供のためにも、スタッフ1人1人がその能力を損ふんい発揮するためにも、活動の基盤となる財政基盤を安定したものにすることにつとめる。施設の老朽化や破損、また多様なニーズに対応するための新しい設備の導入などを、滞りなく進めていくためにも、財政勤番の安定化は必要不可欠である。また、消費税率の変更や社会福祉法人への各種優遇の廃止など、今後の負担増は免れない状況でもある。今まで以上に、収支への意識が重要になっている。各事業部門個々の努力に加え、オリンピア全体でのスケールメリットを活かした支出の減少。新しいチャレンジの結果としてもたらされる収入の増加。全てが一体となって推進していく必要がある。</p> <p>3. 事業目標1および2にも掲げているとおり、新規サービスの展開が必要不可欠となっている。複合サービスの観点から考えると『訪問看護サービス』など、介護保険事業における新規サービスの開設を目指す。また、地域行事などにおいても、助成金などを最大限に活用することで、収入のある社会貢献をおこなっていく必要がある。全ての事業目標を実現するためにも、かならず達成しなくてはならない目標でもある。</p> <p>4. 旧来の施設内完結では対応できない昨今、法人内・施設内はもちろん、地域や他団体とのネットワークの構築が必要である。これまでに培ってきたネットワークに加え、今まで関係が無かった分野においても、理念の達成のために必要であれば、積極的に関係を築いていく。オリンピアだけではなく、地域全体・社会全体の福祉の向上を目指す。</p> <p>5. 新しい事への挑戦をしているスタッフは多数いる。しかし、まだまだ不足している事も事実である。スタッフ1人1人の想いが、オリンピアの理念と重なり、その行動が大きなムーブメントとなる。そんなリーダーシップを発揮できる人材の育成、並びにその活動をサポートしていく人材の育成が必要である。『人材こそが福祉の宝である』ことをしっかりと認識し、その確保と育成に努める。</p>		

事業計画

2014年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	太西 裕二
事業目標	1. オリンピアの理念の徹底 2. 健全な財政基盤の確立 3. 地域に開かれた施設づくり 4. 安全・安心な施設ケアの徹底 5. 誇りを持って働ける職場環境 6. 新しい事への挑戦				
事業計画	<p>1. 全ての利用者が『オリンピアを利用して良かった』と思って頂けるように、『想い』や『ニーズ』に寄り添い、お一人お一人の心のパートナーとして関わっていく。また、常に根拠を持ってケアにあたり、その内容をきちんと検証した上で、常に改善へ積極的な姿勢を持ち続ける。</p> <p>2. 主事業である介護保険事業においては、年鑑平均利用率102.5%を目指す。また、介護保険事業以外にも、社会貢献を通じた収入の場を増やし、財政基盤の安定化を図る。</p> <p>3. 地域を対象としたプログラムの実施、介護相談会・見学会の開催、各種学校への講師派遣などを実施し、地域の中での認知度を高める。そうした活動を通し、地域の中で支え・支えられる関係を構築する。</p> <p>4. 開設20年を目前に控え、設備や備品の老朽化が目立ってきている。また、利用者の重度化が更に進む中、これまでの環境では対応しきれない状況も出てきている。効果的・経済的な環境整備を行い、利用者はもちろんスタッフも安全で安心できる環境を整える。</p> <p>5. 専門職としての資質向上、スキルアップを通して、スタッフ1人1人が自身の仕事にやりがいと誇りを見出すことが出来る環境とシステムを構築する。</p> <p>6. 既存の枠にとらわれず、変革を恐れず、常に先を目指し、チャレンジしつづける事に努める。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者数7,200人(28.0人/日)を目指す 2. コストカットに努める 3. 質の高いサービスを提供する				
事業計画	<p>1. 年間利用者数7,200人(28.0人/日)を目指す: 毎月予算計画に沿って達成出来る様に質の高い介護サービスを提供する。通常規模のデイサービスは苦戦している所が多いが、その中で生き残る為にも「おりんぴあ食堂」等の広報活動を強め、新規利用者獲得を目指す。また、基準該当サービスで新たに障害者の方も受け入れを開始し、オリンピア岩屋・住吉と支援学校のパイプ作りをする。</p> <p>2. コストカットに努める: 介護度軽減の流れが続き、一人あたりの単価が下がり続けている。その為、コストカットに力を注ぐ。スタッフの人員をマイナス1名、シフトの見直しによる業務時間短縮、MKタクシーのドライバー依頼を減らすこと等により、一月で約30万円のコストカットになる。その体制を確立・維持する。</p> <p>3. 質の高いサービスを提供する: 上記のコストカットに伴い、業務内容及びリスクマネジメントの情報共有を徹底する。オリンピアの理念に基づき、職員の意識向上に努める。研修会や他機関との交流を通して得た情報を活かし、利用者・家族のニーズに沿ったケアを実施する。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア	部門	サテライトデイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者平均11.5人を目指す。 2. 効率の良い広報活動を行う。				
事業計画	<p>1. 年間利用者平均11.5人を目指す。:2013年度は年間11.28人となる見込みである。前年度が9.68人であったので大幅増となった。登録数は横ばいだが、出席率が伸びてきているため上記のような数字となっている。行事を減らして集会所での活動に重きを置いたことも功を奏した。2014年度はさらに通常の活動を充実させ、全曜日ともに出席率の安定を図る。曜日ごとでは月・火曜日は現在の出席率を維持しつつ、定員になるまで登録を増やすことを目指す。水曜日は常に10名の出席になるよう努める。木曜日は登録10名を目指す。金曜日は、定員に達する予定なので、さらなる出席率の向上に努める。それぞれの曜日の計画を達成出来れば不可能な数字ではないので、努力していきたい。</p> <p>2. 効率の良い広報活動を行う。:2013年度は広範囲に渡ってあんしんすこやかセンターなどに広報活動を行った。しかし、実際に新規開拓に繋がったのは3か所(予定も含む)に留まった。2014年度は広範囲に渡って行うのではなく、圏域周辺のあんしんすこやかセンターを中心に広報活動を行う。さらに写真付きの広報誌を作成し、他の部署の行事や求人募集などと合わせて広報活動を行う。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 認定調査の資質向上を図る 3. 質の高い居宅介護支援 4. 介護予防マネジメントを行う 5. 介護支援専門員の資質向上を図る 6. 自己評価を行う				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1488件のプラン数 要支援者プラン件数240件を目標とする。</p> <p>2. 認定調査の資質向上を図る:認定調査の研修に参加する。また、書類の取扱いに注意する。</p> <p>3. 質の高い居宅介護支援:月1回は自宅訪問を行い、状況把握し、モニタリングを行う。担当者会議を行い、サービス提供事業所や家族と連絡を取り、情報の収集をし、計画書を作成する。また、在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守っていく。</p> <p>4. 介護予防マネジメントを行う:あんしんすこやかセンターから委託を受け、計画書を作成する。</p> <p>5. 介護支援専門員の資質向上を図る:研修に参加する。また、社会資源を活用し、情報の収集に努め計画書に活かす。</p> <p>6. 自己評価を行う:改善の必要のある項目(自己評価シート)に関しては改善に向け、取り組んでいく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	地域包括支援センター	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族が安心して相談のできる窓口としての認知を高める 2. 地域ケア会議等を通じて高齢者と地域をつなげる役割およびネットワークづくり 3. そのことのできる職員資質の向上				
事業計画	<p>1. 安心して相談のできる窓口としての認知度を高めるために、地域行事への参加を行い、民生委員をはじめ地域の関係事業所および金融機関や各種店舗等へ、あんしんすこやかセンターの告知および高齢者介護に情報を継続的に提供する。そのために定期的な訪問活動を行い、顔の見える関係づくりを努める。</p> <p>また、地域での出張相談会も継続実施し、より地域に密着したセンターを目指す。</p> <p>2. 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために、地域ケア会議等を通して関係者のネットワークづくりを広げて行く。それと同時に、高齢者が元気で参加することのできる場所や機会等、地域資源の発掘や新規開拓、新規立ち上げなどに関して、地域の関係者と共につくっていきたい。また、今後増えるであろう認知症の方の理解や支援も、認知症サポーター店をはじめとして協力を継続依頼していく。</p> <p>3. 民生委員や老人会、婦人会など、高齢者に関わる地域の人的資源の新たな発掘や、ネットワークづくりを推進するための資質を向上するために、神戸市が主催する研修の受講や、コミュニケーション能力の向上など人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や知識の獲得、専門知識の習得に努めていく。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者の生活の質の向上 3. 地域との交流 4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践		
概要	<p>昨年居宅介護支援事業所をオープンしたことでオリンピア灘は介護に関する相談、デイサービス、グループホームと、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを送るという地域のニーズに、より適切に応えていくことができるようになった。今まで培ってきた実践を礎に「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念に基づいたケア、利用者の可能性を最大限に引き出すより質の高いケアの実践に取り組んでいく。更に、スタッフが自発的に自身のレベルアップを目指せるように、スタッフの資質向上にも取り組んでいく。また、地域に開かれたホーム、地域に根ざしたホームとして、地域の認知症ケアの情報の発信源となり、情報を発信し続けていく。今年度オープン予定の「オリンピア鶴甲」「オリンピア篠原」と協力体制を密にして、灘区の高齢者ケア、認知症ケアの拠点となることを目指していく。</p>		
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立: 収入の安定を図り、事業運営を円滑にする。そのために、入居者、利用者の利用率を高めるとともに、体調の変化による入院等のリスクを減らし、安定した利用率をキープする。常に入居者・利用者ひとりひとりの状態を的確に把握し、迅速に対応する。また、2012年度に対象になった灘区の「地域力を高める」活動助成など、様々な助成金にもチャレンジできるように、情報に対してアンテナを張り巡らせる。</p> <p>2. 利用者の生活の質の向上: 「生活の主人公」である利用者が、1日1日をその人らしく充実して過ごしていただけるようお手伝いする。日々の何気ない会話の中から、利用者の「したいこと」「出来ること」を的確に把握し、スタッフ間での情報の共有を図る。また、グループホームに入居していても、夢をあきらめるのではなく、新しいことにチャレンジしていただけるように支援を行う。さらに、グループホームのユニット内で実施している「共用型デイサービス」のメリットを活かし、入居者と利用者との関係づくりに取り組む。その他、入居者・利用者の夢や希望について情報収集を行い、旅行やふるさと訪問など、「夢のプロジェクト」にもチャレンジしていきたい。</p> <p>3. 地域との交流: 日々の散歩や買い物等の外出を積極的に行うとともに、地域で行われる行事にも参加する。またSalon de l'Olympia Nada等のプログラムを通して地域の方をお迎えし、地域の一員としての役割を果たしていく。常に様々な情報を発信し続けることによって、地域から必要とされ、地域に開かれたホームとなれるように努める。さらに、居宅介護支援事業所オープンにより、地域の方の介護に関する相談により適切に応えていく。また、高齢者だけでなく、幼児から大人まで様々な方々に気軽に出入りできるようなホームを目指す。実習生・ボランティア・見学者等の受け入れも積極的に行う。</p> <p>4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践: スタッフ全員が「オリンピア灘の理念・3つの約束」を理解し、ケアする上での礎とし、日々理念に基づいたケアを実践する。また、オリンピア灘での取り組みやその成果を、「新しいケア」としてさまざまなメディアを通じて外部に発信する。また、スタッフ全員がそれぞれのキャリアや希望によって積極的に法人内外の研修に参加し、スキルアップを図ることができるよう支援する。</p>		

事業計画

2014年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践していく。入居者おひとりおひとりの意向やメッセージをしっかり受け止め、叶えていくお手伝いを行う。定期的なカンファレンスにより、理念に沿ったケアができているか振り返り、おひとりおひとりの更なる成長へ繋がっているか評価する。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:職員は得意分野ではリーダーシップを取り、不得意なところはチームでフォローし合える環境を作る。共に学び、成長し合うという環境を作り、職員全員が誇りと自信を持って働けるようにする。リーダーは職員全員のことを常に気に掛け、現状を把握し、チーム全体で課題を解決していく。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:オリンピアに携わるすべての人々が、希望の光として輝き、地域に出かけ、「高齢になっても今まで通り、誇りを持って安心して暮らせる生活」ができることを実証していく。また、地域に向けて認知症理解に向けた講演会を行う。また、各種イベントを通して啓発活動を行っていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:年間稼働率97%を目指すため、入居者おひとりおひとりの小さな変化に気づき、早めの対応を行い、入院を未然に防ぐ。日頃から支出を見直し、新たな収入源を得るため、新しいことにどんどん挑戦する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立:年間利用平均2.0人/日以上を目標とする。登録実人数9名以上をキープできるよう、オリンピア灘居宅や地域の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を継続的に行う。また、全職員が「コーポレート・アイデンティティ」を共有し、職員全員が情報の発信源となる。</p> <p>2. サービスの質の向上:共用型デイサービスであるオリンピア灘はその特徴を最大限に発揮し、お友達の家遊びに行く感覚で利用していただき、入居者の皆様と一緒に、家事や外出等様々なことにチャレンジしていただく。利用者おひとりおひとりのアセスメントをしっかり行い、生活歴を把握し、利用時に活躍していただける場を提供する。グループホーム入居希望の方には、入居者、スタッフとの信頼関係を築いたうえで、今まで通りの生活を安心して続けていただけるように取り組む。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア灘	部門	居宅介護支援事業所	報告者	間中 重博
事業目標	1. 新規利用者の獲得と健全な運営 2. 介護支援専門員としての資質や技術の向上 3. 地域、他事業所との交流				
事業計画	<p>1. 新規利用者の獲得と健全な運営:毎月、あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所等に営業を行い、新規利用者の獲得を行う。新規利用者の獲得を行うことで、収入の増加を図り、健全な部署運営を行っていく。</p> <p>2. 介護支援専門員としての資質向上と技術の向上:外部、内部で実施される研修に参加し、介護支援専門員としての資質や技術の向上に努める。また、研修を通して、外部、内部問わずに交流を持つことで、介護保険制度等の情報収集を行っていく。</p> <p>3. 地域、他事業所との交流:圏域あんしんすこやかセンター連絡会、各地域の小地域見守り連絡会等に参加することで灘区内の社会資源を知り、担当利用者の生活の質の向上へと繋げていく。地域住民や他事業所が集まる場へ積極的に参加し、グループホームオリンピア灘、居宅介護支援事業所オリンピア灘の広報を行うことで、地域や他事業所へオリンピア灘の認知度を広めていき、灘区でのオリンピアの事業拠点がオリンピア灘となるように努めていく。</p>				

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要	<p>2004年8月の開設より10年を迎える2014年度は、オリンピア兵庫にとって大きな節目となる大切な年度である。これまでの取り組みをふり返り、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一步を踏み出すことが求められる。そのために、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけでなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるように、固定観念にとらわれることなく、新しいことへのチャレンジを続けていきたい。</p>		
事業計画	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化:「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立:安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速なを行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的実施することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦:地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成:オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>		

事業計画

2014年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	市田 恒夫
事業目標	1. ケア理念の遵守「生活の主人公は利用者ご本人です」 2. 地域で存在感のある施設づくりをめざす 3. 人材の育成、スタッフの成長をめざす 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
1. ケア理念の遵守「生活の主人公は利用者ご本人です」					
○ユニットのビジョンを明確にし、「生活の場」にふさわしい環境作りを行う。					
○人生のフィナーレを意識して、グループダイナミクスの効果を活かした行事等を企画、実施する。					
2. 地域にあって存在感のある施設をめざす					
○Salon de l'Olympia の継続、新しい展開を考え実践する。					
○Cafe Olympiaをより地域にとけ込んだ場として今年度も楽しいイベントを立案・実施する。					
3. 人材の育成、スタッフの成長をめざす					
○若手リーダー育成研修他、内部研修はもとより、外部の研修にもスタッフが参加し外部との関係をつくる。					
○人材確保を意識し、オリンピアブランドを高めていく。					
4. 財政基盤の確立					
○年間稼働率97.5%以上を目標とする。予算管理をしっかりし、何かあれば、早く手をうつ。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの向上 3. スタッフの資質の向上 4. 地域に密着した運営				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:年間利用率の目標を100%以上として、常に高い収入を確保するとともに余裕をもった状態を維持できるように目指す。予算を達成していくとともに、各入所部門の中継地点としての役割を掲げ、ご利用者の状態に合わせて円滑に入所部門へ繋いでいくことで、法人全体の収益を底上げしていく。					
2. サービスの向上:パーソンセンタードケアを基盤としたご利用者お一人お一人に合わせたケアを実現。ご利用者ご家族からの希望や訴えに即時対応を行い、外出や行事を企画していくことで、安心できる生活の中で充実感、達成感を提供していく。その方らしい生活の質を高めていくために、ケアプランの作成と遵守を行う。					
3. スタッフの資質の向上:光朔会の理念や歴史を学び、全ての職員が光朔会の一員であることを自覚し、プロとしての責任を持って行動する。内外の研修に参加し、幅広い視野を身につけるとともに、部門内で接遇を勉強する機会を設け基本的な接客スキルを高める。行動がご利用者の生活を高めることに繋げていく。					
4. 地域に密着した運営:地域の商店やイベントを利用し、地域の方々との関係を築いていく。各種行事に地域住民を招待し、地域に開かれた運営を目指す。地域に根ざしているcafe事業などを活用し情報発信を行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 教育事業の立ち上げ				
事業計画					
1. 2013年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
対外的な活動参加による施設認知度の向上					
区役所が主催する地域ケアネット活動との連携を深めて行く					
2. 地域との密着					
地域との交流イベントを開催し、地域コミュニティ拠点造りを推進する					
3. 人材育成の強化					
法人内他施設との交換研修制度を確立し、連携を強化する					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う					
4. 教育事業の立ち上げ					
初任者研修事業を立ち上げ、この活動を通じて対外的にオリンピアの考え方を広める					
人材確保の一環として機能出来るまでに高める					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーによる支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、自らの生活イメージを取り戻し、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを利用して頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：介護職員初任者研修の実施によりヘルパー業務に携わることのできる人員を確保する。また、定期的に実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。					
4. 保険外サービスの具体化：介護保険ではカバーできないサービスや、非該当にあたる高齢者の方に対する家事代行サービス・外出サービスなどを展開し、保険外収入を確保する。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしてのスキルアップ 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者の尊重				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:2014年度の収入予算を達成して、法人の財政基盤の確立に貢献する。					
2. 地域、他事業所との連携強化:地域、他事業所との関係づくりをより強固に行っていくことで、利用者の安全な在宅生活に繋げていけるように努力していく。地域資源の発掘にも取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。					
3. ケアマネジャーとしてのスキルアップ:外部、内部を問わずに研修や勉強会には積極的に参加し、介護保険制度やケアマネジャーに必要な知識を得るとともに情報収集を行いスキルアップを行っていく。					
4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者を積極的に受け入れる。相談を親身に行い、利用者家族が安心して在宅生活が送れるように支援を行っていく。					
5. 利用者の尊重:利用者の希望する生活が維持できるようアセスメントによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、多(他)職種との連携を図り、柔軟な対応を行う。					

施設	オリンピア都保育園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. 保育内容の充実 2. 地域子育て支援の充実 3. 保育専門職としての資質向上 4. 次世代育成支援 5. 関係団体との連携		
概要	<p>オリンピア都保育園は2014年5月に開園10年を迎える。今年度もオリンピアの理念に基づき、イエス・キリストの愛と奉仕の精神をもって、ひとりひとりの子どもがその子らしく輝ける保育をおこなっていく。子どもの成長がご家族の喜びとなり保育園と保護者が良きパートナーシップを確立できるように、子どもたちの笑顔が地域の皆様のあたたかい見守りのなかにあることを感謝し子どもたちとともに地域貢献ができるように、考え進む一年にしたい。</p> <p>また、子どもを取り巻く多様化、複雑化する状況のもと2017年度に子ども子育て支援制度の改正がおこなわれるオリンピアの保育を推進していくためには、どういう方向に進んでいくべきかを考えながら進む一年になるであろう。</p>		
事業計画	<p>1. 保育内容の充実：子どもの育ちを支援するために、子どもの24時間を見通した生活をデザインすることが必要である。そのために、保護者と保育園が信頼関係を築き、子どもへの思いを重ね合わせ、ひとりひとりに応じた保育計画をたてる。障がい児保育、長時間保育、一時保育等の事業としての大きなニーズに応じていくとともに、ひとりの保護者、ひとりの子どもが発信した小さな声にも敏感に耳を傾けるていねいな保育を心がける。一年間のあそび(行事)において、それぞれの年齢が経験すべきねらいを明確にし、見直しをもって取り組む。</p> <p>2. 地域子育て支援の充実：一時保育の環境の見直しをおこない、一時保育児の生活・あそびの保障に努める。未就園児親子に向けての従来のプログラムに加え、親子で楽しめる講座、母子分離をして親がリフレッシュできる講座を企画する。灘区子育て応援プラザと連携して親子ふれあい遊びを計画する。地域にはまだまだ本当に支援を必要としている親子が埋もれているかもしれない。地域の子育て支援拠点の責任として、そのような親子の掘り出しをおこない支援にあたる。</p> <p>3. 職員の資質向上：ひとりひとりの育ちを支える、個人を尊重するという観点から、全職員が社会福祉法人光朔会の理念を学びなおす。また、子どもの最善の利益を図る児童福祉施設として、子どもの権利・子どもの人権について学び、遵守する。保護者との信頼関係構築のため、コミュニケーション理論・カウンセリング理論を学ぶ。経験年数や立場・役割に応じた目標とねらいを明確にし、それぞれがPDCAサイクルを意識して保育をおこなう。</p> <p>4. 関係団体との連携：神戸市私立保育園連盟・キリスト教保育連盟・聖公会保育連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。神戸市、兵庫県の子育て支援事業の積極的な受け入れをおこなう。保育士不足が叫ばれているなか、養成校との連携を深め、実習生の受け入れ・指導をおこなう。</p> <p>また、実習生を受け入れる新たな養成校を開拓する。次世代育成プログラムとしての地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを受け入れる。地域にある保育園として、地域のお支えに感謝し、地域行事への子どもの参加、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p>		

施設	オリンピック神戸北保育園	報告者	園長 紙屋 直美
事業目標	1. 保育内容の充実 2. 地域子育て支援の充実 3. 職員の資質向上 4. 関係団体との連携		
概要	<p>保育内容について共通理解が十分に出来ていないところがあるので、正規職員はもちろん非正規職員にもしっかりと伝え、全職員で保育を担うようにする。保護者対応も課題がたくさんあるが、子どもの今のことや将来のことを思い、保育を進めていることをしっかりと伝えられるように、その都度自分の保育や園の保育を意識しながら進められる様にする。職員が自分の課題を見つけ研鑽を重ねることが出来るように、園外研修の参加はもちろん園内研修の充実も図る。又学んだことをまわりに伝えたり保育の中で発揮できるよう、職員の意識を高めていく。在園児以外の子育ての応援や地域に求められる保育園としてのあり方を意識し、積極的に進めていく。</p>		
事業計画	<p>1. 保育内容の充実: 法人の理念・保育園の理念を再確認し、子どもの権利と幸福、そして保護者の希望を見据えながら、子ども一人ひとりが健康な心と身体で楽しく過ごすことができるように保育を行う。</p> <p>園の保育を伝えながら家庭保育についても話を聴いたり、保育参加をしてもらったりして家庭と共に保育を進める。又育児相談も行い保育のプロとして支えていくよう様にする。すこやか児は勿論、気になる子どもについて、研修等を積極的に受け、共通理解を持ちながら対応していく。</p> <p>今までの保育を振り返り、よりよい保育が展開できるように職員全員で取り組む。</p> <p>2. 地域子育て支援の充実: 待機児童の対応として定員をこえての受け入れをする。又一時保育についても、就労・出産・保護者の疾病・リフレッシュと保護者のニーズを理解し、受け止めながら対応していく。</p> <p>子育て広場では好評だったプログラムを続けながら、健康講座や食育講座等新規のプログラムも検討し子育て応援事業を充実させていく。公園等で地域の親子にも気軽に声をかけ、子育て支援や一時保育について知らせ、参加者や利用者を増やしていく。</p> <p>3. 職員の資質向上: キリスト教保育の実践者としての自覚を持ち、一人ひとりの子どもの成長や心情をくみ取り丁寧な保育を心がける。子どもと共に成長しようと常に向上心を持つ職員集団となるように、自己研究課題を持ち1年を通して研鑽を重ねながら保育を進めていく。いろいろな考え方があるが、その時々の子どもにとって最善の内容となるように話し合い、お互いに協力しながら保育を進めていく。正規・非常勤にかかわらず、職員全員で子どもについての共通理解を持ちながら保育を行う。保護者対応も丁寧に行い、子どもや子育てについて一緒に考えたり喜び合ったりできる関係を築いていく。</p> <p>安全管理について意識を持ち、気づいたときは都度確認し、話し合いや改善を行いながら進めていく。</p> <p>4. 関係団体との連携: 地域のイベントや清掃等に積極的に参加し、地域との関係を大切にする。</p> <p>地域の方に園の行事に参加してもらい、感謝を伝えながら、保育園についての理解を深めてもらう。</p> <p>保育実習・トライやる・ボランティア等を受け入れる。</p> <p>連盟(私立保育園・聖公会保育園・キリスト教保育園)の研修への参加や、子育て支援講座や北ブロックの子育てプログラムの支援・協力をを行う。</p>		

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1.その人らしい暮らしの実現 2.財政基盤の確立 3.光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践 4.小規模多機能ケアの確立 5.地域の拠点になる		
概要	<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、開所より5年目を迎える。各部門とも、しっかりと地域に根付き始め、利用申し込みも待機者を絶えず抱える状態に成り、相談窓口も充実してきている。職員全体のスキルも、少しずつ底上げしてきており、開所時に未資格だった職員も介護福祉士の国家資格を取得できるようにまでなった。</p> <p>“その人らしい”暮らしの実現という理念に基づいた取り組みを大いに挑戦し、地域と光朔会を担う事業展開を試みていきたい。西区という、まだまだ未開の地がある出先機関で、地域に密着した形で、今までに積み重ねてきた地域との歩み、また培ってきた地域との協働を生かし、地域への文化の発信をしていく。地域と共に成長し、活気溢れる街作りの一端を担うために、有事に備えてキチンと準備の出来る、戦えるチームに飛躍していく。</p>		
事業計画	<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で継続することを支援する。おひとりおひとりの声にキチンと耳を傾け、その人に寄り添い、一緒にチャレンジすることにより、その声を実現していく。本来持つ、おひとりおひとりの力を引き出し、グループの力に繋げていきたい。人材確保の厳しい現実をも、理念の実現によって乗り越え、この貴重なグループの力をPRすることにより、神戸西の知名度とボトムアップの糧にしていく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:地域の資源を生かせる取り組み、開所5年目に入り、地域との繋がりを生かせる、支出削減を見出していく。消費税の引き上げに伴う制度の見直しにより、収入増、支出減とで、健全な財政基盤の確保を図る。日常の取り組みでは、スケールメリットを生かした流通ルートの見直しや、地域との独自の繋がりを礎にした助成金の申請、共催で関わって下さっている様々な団体の支援を更にチャレンジし、新たな収入源を見出していく。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践:地域との実践を生かしたノーマライゼーションをこれからも発信し続ける。地域交流室を活用し定期的な講演会やコンサートを実施、地域の方が今まで以上に当施設に気軽に入って来られる仕組みを作り、誰でもが友人の家に遊びに来られるような場所にし、地域の高齢者ケアの拠点となると共に、喫茶コーナーが憩いの場となるような地域貢献を担って行きたい。就労支援事業所との連携により、地域で障害者が普通に暮らせる仕組みを地域住民と共に構築し、お困りの方が一人でも多く、光朔会での関わりを通して、輝けるよう社会貢献の一端も担っていききたい。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立:利用者おひとりおひとりに対して、施設でのケアで完結するのではなく、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる提案をする。その人に合わせた、柔軟な発想を選択し、リーダーを中心とした世代を超えた意見の交換の場や新しいケアでしか見出せない実践を重ねていく。その取り組みを新しい人材の確保と育成のPR及び活動に繋いでいく。</p> <p>5. 地域の拠点になる:隣接の公民館や児童館・保育園等の各機関との協働、神戸市を運営母体とする他業種と社会福祉法人光朔会の当事業所との相互補完的な新たな取り組みを見出す。特に、次世代交流や地域交流を通して、差別の心を育まない街作りの一端を担い、地域交流スペースの有力な活用方法を見出す。喫茶の売り上げを30%アップ、毎月、100,000円以上の売り上げ可能な喫茶の運営を目指すべく、チャレンジを楽しむ。</p>		

事業計画

2014年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	西川 晃
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフと資質向上とチャレンジ 4. 地域の拠点作り				
事業計画	<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。画一的なケアになることなく、おひとりおひとりの声に耳を傾け、その方に寄り添い、一緒にチャレンジすることによって、その方の希望される生活を実現していく。長期に渡って質の高いケアを提供していく。また、本来持てる力を引き出す関わり、何か一つ役割を担って頂き、生活の主役として輝ける関わりを実践していく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用収入目標 73,100千円。平均要介護度 1.7。喫茶スペースを利用した食事の提供や、緊急時の宿泊受け入れにより、在宅生活の継続支援、ニーズに合わせた受け入れを積極的に実践していく。</p> <p>3. スタッフの資質向上とチャレンジ:リーダーを中心に、ビジョンを掲げ、人を幸せにするには、まず、自分たちが幸せになる為、人間性を豊にする学びの時間を大切にする。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる提案、柔軟な発想に基づいた世代を超えた意見交換、新しいケアでしか見出せない経験を積み重ねていく。</p> <p>4. 地域の拠点作り:高齢者の相談窓口としての充実と、友人の家に遊びに行くような感覚で、自由に入出入り出来る環境作りを心掛ける。文化の発信や、高齢者の生き甲斐作りをも担える新しい拠点作りにチャレンジしていく。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える 2. 財政基盤の確立 3. 人材育成とスタッフの定着 4. 地域と共に歩む				
事業計画	<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:理念を遵守し、お一人お一人がいつまでも自分らしく生活できる関わりを提供する。入居者の声に耳を傾け、入居者自身が自己選択・自己決定・自己実現を行える関係作りに尽力する。また、入居者の思いを叶えるお手伝いをすることで、入居者・スタッフが感動を共有し、いつまでも未来に向かって挑戦し続けることができるチームを目指す。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用収入目標 105,546千円。平均要介護度 3.6~3.7。入院者が出た際には、空床ショートでの迅速な対応を行う。年間稼働率99.0%を目標とする。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着:スタッフ各自が内部、外部の研修や勉強会への積極的な参加、各種資格取得等自己研鑽に励むことで特養全体の質の底上げを目指す。また、ユニットリーダーが中心となり、ユニットケアを実践することでチーム力を高め、スタッフの定着に繋がるようにする。</p> <p>4. 地域と共に歩む:各イベント、cafe olympiaをとおして地域に開かれた施設を目指し、また、地域の行事に積極的に参加することで、双方向の交流を行う。地域の高齢者の相談窓口としてのポジションを確立する。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	芦田 智子
事業目標	1. 地域住民や高齢者からの介護相談窓口としての役割 2. 財政基盤の充実 3. 他部門と地域との協働 4. 居宅介護支援の質の向上				
事業計画	<p>1. 地域住民や高齢者からの総合相談窓口としての役割: 公平中立な視点に立ち、保険・医療・福祉の関係機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し増進する。民生委員や圏域地域包括支援センター等との連携を密にし、地域住民の介護相談窓口としての役割を担い高齢者が地域で安心して生活できる環境を整える。</p> <p>2. 財政基盤の充実: 常勤ケアマネが2名配置になることでより多くの利用者に関わる事ができるようになる。月毎の担当利用者数を増加させることで、年度末には2名の稼働率を95%にすることにより安定した収入を確保しつつ効率的に業務を行うことにより必要経費を最小限に止める。</p> <p>3. 他部門と地域との協働: 地域の高齢者に対して様々な相談に柔軟に対応し、他部門と協働することで困難事例へも積極的な関与により地域から信頼を得る。他部門と連携しながら神戸西の機能を発信し地域との積極的な関わりを持ち神戸西の機能を最大限に活用し地域に貢献できる活動を行う。</p> <p>4. 居宅介護支援の質の向上: 神戸西は、5年目を迎え様々な事例に関わりを持ってきたが、利用者が地域で生活していくための幅広い知識とより柔軟な対応が行えるように自らも各種研修・講習会に参加し研鑽する。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2014年度

施設	オリンピック神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 3. 財政基盤の確立 4. あくなき挑戦による資質の向上				
事業計画	<p>1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立: シルバーハウジング入居者への支援。生活相談、安否確認、コミュニティづくりに役立つ支援。一時的な家事支援、緊急時の対応、関係機関等との連携、その他日常生活に必要な支援。</p> <p>2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開: 神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を確保する。公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し、高齢者をはじめとした地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりに努める。専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源を担う。法人独自の企画・運営を実践していく。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 利用収入目標 4,100千円。コミュニティづくり事業を積極的に行う。</p> <p>4. あくなき挑戦による資質の向上: 神戸市主催の定期的な講演会並びに研修会の企画・運営に積極的に携わることにより、専門職の更なる資質の向上を図る。オリンピック神戸西との連携を保ち、地域へ認知症についての情報を発信していく等、新しい取り組みへの積極的な挑戦により、更なる資質の向上を図る。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全な育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 地域への貢献 4. 職員の資質の向上		
概要			
<p>都児童館は社会福祉法人光朔会のもとで3年目を迎える。オリンピアの理念の基、利用者ひとりひとりに心の目を向け、常に一対一の目で接することを基本とし、児童館としてできることに積極的に、ひとつひとつ丁寧に取り組んでいく。当児童館は乳幼児の親子から地域自主グループの高齢者までが利用する館となっているのでその特性を活かし、地域の大人と子どもたちが児童館活動を通して交われるような場の設定を積極的に取り入れていきたい。また、親子の継続的利用につながるようにプログラム内容の充実を図るとともに、保護者の方に安心して預けてもらえるような信頼関係を築く努力をする。先を見据え、児童館が今まで以上に成長できるように職員の更なる意識向上を図る。オリンピアの取り組みについて館内掲示をはじめとして、地域に積極的に発信していく。</p>			
事業計画			
1. 児童の健全な育成			
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや行事を通して異年齢児・地域の方との交流を図り、お互いを尊重することの大切さを年齢に応じて理解できるように声をかけながら見守っていく。また、集団モラルを学べるように配慮する。 ・思いやりの心や自主性・創造性・社会性を高め、子どもの心と体の健康増進を図るために日常の活動に加え毎月の行事や季節の行事を行う。それぞれの職員が企画した新たな発想を大切に、幅広いものにする。 			
2. 子育てと家庭の支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における子育てと家庭の支援のために下記の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・すこやかクラブ ・キッズクラブ ・なかよしひろば(赤ちゃんタイム・1歳児タイム) ・親子のふれあい講座 ・児童館子育て相談 ・子育てコミュニティ育成事業 ・子育て母親対象講座 ・子育て母親のリフレッシュ 			
3. 地域への貢献			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流コーナーにおける自主グループ活動が円滑に行えるようにすると同時に利用者の安全を見守る。 ・地域団体や地域住民と連携し、地域住民が年齢の枠をこえてふれあう交流活動に取り組んでいくことで地域社会の機能の充実の一助となるよう努力する。 ・子育て支援・家庭支援につながる地域社会を目指すために、地域交流事業の推進を図り、温かい雰囲気の中で場の提供に努め、ニーズに合ったプログラムを積極的に取り入れていく。 			
4. 職員の資質の向上			
<ul style="list-style-type: none"> ・光朔会オリンピアの一員であり、児童館職員であるという自覚と責任をもって行動する。 ・利用者とは接するときは年齢にかかわらず、オリンピアの理念に則って、目線をあわせ、個人を尊重した対応をする。来て良かったと感じてもらえるように笑顔で気持ちの良い挨拶をいつもできるようにする。 ・職員ひとりひとりが地域の方、利用者の方により信頼される人材となるために、初心を忘れることなく素直さと自己の目標をもち、それぞれが仕事面のみならず人としても成長できるようにする。 ・トライやるウィーク、ワークキャンプの受け入れで、職員自らも生徒を通して学びをするチャンスととらえる。 ・定期的に研修に参加し、他の児童館職員と情報交換するなど向上心を常にもてるようにする。 			

施設	障害者就労支援センター オリμπピア岩屋	報告者	管理者 阪田 昌三
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者支援の向上 3. 農作業の技術向上及び生産体制の充実 4. 地域協働による取り組み 5. 事業所のショップ化		
概要	<p>3年目を迎えオリμπピア岩屋の土台は形成されつつあり、ようやく周知され事業所への理解が構築されてきている。これまでの活動がひとつひとつを維持しながら、新たなスタートとしてまずは安定した事業所運営を目指し、基盤をより強固なものにしていく。また、長期的な状況も視野に入れ、新たな取り組みや事業展開も視野に入れ、今後の障害福祉制度の変革に即座に順応していけるように構えておく。</p> <p>農作業等の事業についても幅広く活用していくこと事業自体がより活性し、規模拡大していけるように確実に実行していく。岩屋・住吉の連携は基よりオリμπピアすべてにおいて連携を強化し法人全体の利益となるよう行動する。</p>		
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立：2年が経過した時点で収支の差はようやく縮まってきた。これから3年目に突入するにあたり、利用者の増員は優先課題であるとともに、利用者一人ひとりの状況に注視し利用日数に大幅な差が出ないように安定した利用者確保をし、財政基盤を安定させる。過去の利用状況を分析するにあたり、特別支援学校卒業生、他事業所利用等の方は毎日利用する傾向があり、利用者の層もバランスの良い構成をしていく。</p> <p>2. 利用者支援の向上：新規利用者が増える中で、障害の状況も様々で特に発達障害の方への支援がより個別で必要になってきている。コミュニケーションや接し方への配慮や工夫をスタッフ自身が質の向上に努めていかなければならない。岩屋は1フロアの中で作業を行うので個別というより集団で行うことが多く、他者を意識してしまうことや周囲に過敏に反応してしまうなど個々が抱える状況に配慮した支援を行っていく。例えばipad等の福祉機器の導入や構造化することで日中活動での「しずらさ」を軽減できるように取り組んでいく。</p> <p>また、利用期間が長くなるにつれ、休憩時間・余暇の過ごし方など仕事以外の時間の過ごし方を見つけていくよう働きかけていく。</p> <p>3. 農作業の技術向上及び生産体制の充実：丹波の畑を活用していく上で、専門家からの技術指導をより積極的に行う。丹波ブランドの価値を最大限に活かし、黒豆、お米の生産に努め、コストに重要視しながら利益を生み出す。また、新たな試みとして水耕栽培など岩屋やオリμπピア内で取り組めることも並行して考えていく。</p> <p>利用者も丹波へ行く機会を設定し、作物を育てる楽しみや喜びを共感し、やりがいを感じてもらえる試み。もちつきやバザーなどオリμπピア内でのイベントで野菜などの食材を供給できるシステムを目指す。</p> <p>4. 地域協働による取り組み：地域をはじめとして障害者支援センター、クリニック、丹波地方関係など、福祉の枠組みだけではない「つながり」があり、野菜市や各種イベントに参加することで関係が築けてきたが、今年度は岩屋から発信できるイベント等を実施して地域・地方など人とモノをつないでいく。</p> <p>5. 事業所のショップ化：福祉事業所のイメージを一新し、地域の方から見てもお店と思ってもらえるものを目指す。利用者にとって現場に近い環境を設定することで接客や商品管理、販売など職場体験をする機会を通じて、働くことの意味やその楽しさ、達成感を持てるように働きかける。商品はWho Mail?ポストカード、野菜販売、利用者が考え作ったものをパッケージまでこだわり商品として販売する。</p>		

施設	発達障害者サポートセンター オリムピア住吉	報告者	センター長 藤原 一秀
事業目標	1. 「障害者就労支援事業」の充実 2. 利用者の募集と安定化 3. 活動内容の広報強化 4. 作業内容と販売形態の多様化 5. 職員の障害特性理解と支援技術の向上		
概要			
<p>発達障害者サポートセンターとして、発達障害の方が不安無く、持っている能力を十分に発揮できるよう、職員はその様々な特性を学び、コミュニケーション技術を向上し、環境を整備、ICT機器を活用した支援を行う。</p> <p>一般就労へ移行する準備としての短期利用も増えてきたことにより、継続的な利用者募集が必要な課題である。</p> <p>長期利用の方も、短期利用の方にも充実した活動ができるプログラムを実施し、多くの方に広報することにより継続的な利用者募集を行う。</p> <p>また支援学校の卒業生が、これまで学校で学んできたことを途切れることなく社会の場で活かせるように、学校関係者との連携を強化し、様々な形で交流を行う。</p>			
事業計画			
<p>1. 様々な特性のある発達障害の方に対し十分な支援を実現するために、現場の状況に直結した職員研修・作業環境の整備・作業手順の明確化を行う。特に現在の様々な障害の方が利用している環境では不利になりがちな視覚・聴覚過敏の方への理解を深め、環境を整備し、安心して利用できる場を確保する。</p> <p>2. 一般就労でも必要な経験ができる場であり、また就労経験の少ない方や生活リズムの調整の場を求めている方にとっても有効な場であるために、利用者の状況に合わせて時間や作業環境を検討し、より細分化した作業内容とその伝達技術を向上させる。特に利用者自身で確認できるチェック表や工程表などの視覚支援を充実させる。</p> <p>3. 広報については、日々の活動の内容紹介と、定期的なイベントに重点を置く。</p> <p>得意なことが大きく異なる方々が役割を分担し、作業方法を工夫しながらひとつの製品を作る日常の活動を一番のPRポイントとして、ホームページ等で継続的に広報する。また利用者自身の視点から情報発信できるように利用者のICT活用も充実させる。</p> <p>月一回のタブレット教室や、御影クラッセでの定期的な販売会等を継続的に広報を行う。関係者・機関にはできるだけ直接訪問し、チラシ配布をきっかけに幅広い内容で情報交換を行う。</p> <p>4. 作業については、印刷・加工と木工を重点に工程の明確化とオリジナル商品を充実させる。</p> <p>印刷・加工作業はチラシや講演会資料の製作と、絵はがきの管理作業が年間を通して安定している。定番の作業は変化や変更を苦手とする方には重要であるため、ひとつひとつの作業をさらに細分化しマニュアルにまとめ、安心して作業ができる環境を作る。</p> <p>木工については、手先が不器用であっても、オリジナル商品のアイデアを考えるなど様々な役割分担でこれまで取り組んできた。これまで協力いただいていた林業や木育関係の方とさらに連携して、オリジナル商品の充実を図る。</p> <p>5. 学校との連携においても、タブレットなどのICT活用について合同の勉強会を開くなど協力を求められるようになった。全国的にもまだ未成熟な分野であるので、単なる作業確認に留まらず、コミュニケーションや情報収集など発達障害の方の生活を支えるツールとして活用できるよう先駆的な取り組みを行っていく。</p>			